

きのくに自主防災

<発行元>

第24号 (平成31年3月号)

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局 (和歌山県庁防災企画課内)

県内2団体が平成30年度の功労者表彰を受賞!

和歌山市 和歌浦地区防災会 (防災功労者内閣総理大臣表彰)

同防災会では防災訓練や防災活動は気楽に楽しくという意識をもってもらうため、防災活動標語「3す・・・飽きず、忘れず、疲れず」を地域住民に浸透させ、活動を進めています。

阪神・淡路大震災後には要配慮者への支援などの取組を開始し、「助け合い登録書(下図)」の配付や、災害時の避難支援を希望する方の登録リストや位置を示した支援マップを作成しています。作成したリストやマップは地区回覧により住民への周知を図るとともに、双方のコミュニケーションを図るため支援者が登録者宅を訪問するなど地域のつながりを強める先駆的な取組を行っています。

これらの取組が評価され、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。



(左) 表彰式 (右) 助け合い登録書

和歌山県自主防災組織情報連絡会 (和歌山県庁防災企画課内)

「災害時、避難所運営などで支援を希望する方」の助け合い登録書(下記を記入の上、毎月3日までに届出してください。)

【留意】 届出される方は、次のことをお読みください!
1. 災害時避難支援活動は、災害発生時に行われる活動です。
2. 災害発生時の避難所運営の支援活動は、災害発生時に行われます。
3. 災害発生時の避難所運営の支援活動は、災害発生時に行われます。
4. 災害発生時の避難所運営の支援活動は、災害発生時に行われます。

【注意】 支援を希望される方で、すでに届出している方も、記入をお願いします。届出してください。

氏名	性別	電話番号	住所
和歌浦地区 下田 一	男	073-441-XXXX	和歌山県和歌山市和歌浦地区

●ご家族の名字 (届出する項目に○を付けて下さい) ●災害時参加することがあります。
1. 一人暮らしです。
2. 1階の部屋に避難所を希望しています。
3. 若い人と一緒に暮らしています。

●災害時参加の意向 (届出する項目に○を付けて下さい)
1. (ほほ)参加します。
2. 一人での参加は困難で、思いを伝えています。
3. 一人での参加は困難で、参加する人についています。
4. 1階の部屋でなくとも、1階の部屋に希望しています。
5. 参加のため、緊急避難所を希望しています。

●お住まいの階数 (届出する項目に○を付けて下さい)
1. 1階
2. 2階
3. 3階

●緊急時の連絡先 (届出する項目に○を付けて下さい)
お名前: 住所: 電話番号: 携帯番号:

●登録料は(5万円)までに届出して下さい。届出は届出までお願います。

海南市 塩津区防災会 (防災功労者防災担当大臣表彰)

同防災会では、「自分たちでできることはすべてやる」を合言葉に、消防団、漁業組合、各地域団体などと連携しながら地域全体で力を合わせて防災活動を実施しています。

家族構成や緊急連絡先、特記事項として自立歩行困難などの情報を記載した「防災住民台帳」を作成し、避難所に保管して、災害時に避難支援を希望する方の情報を地域で共有するなど、避難行動要支援者対策に重点的に取り組んでいます。



表彰式

また、役員35名のうち10名を女性とし、避難所運営のグループリーダー2名のうち1名を女性とするなど、避難所運営などにおいて女性視点の意見を積極的に取り入れる体制を構築しています。

これらの取組が評価され、防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました。

※交流大会で活動を発表いただきました。詳しくは4ページをご覧ください。

4県連携自主防災組織交流大会を開催しました！ in 和歌山

4県連携自主防災組織交流大会とは？

南海トラフ地震発生時に甚大な被害が予想される三重県、徳島県、高知県、和歌山県の4県が連携し、共通課題である自主防災組織の育成や活動活性化を目的として、平成18年度から毎年、開催県を交代しながら開催しています。



会場いっぱいの参加者

今年度は本県有田市で開催！



今年度の交流大会は、平成31年2月3日(日)に有田市文化福祉センターで開催し、他県や県内各地から約380名も参加いただきました。

もちつきよしお
望月良男有田市長にご祝辞を頂戴した後、交流大会の前半では、各県の自主防災組織代表者から活動事例について発表いただき、後半では
もとづかともき
本塚智貴 明石工業高等専門学校 建築学科 助教をコーディネーターにお招きし、各県の自主防災組織代表者をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。



活動事例発表の様子

◆4県の自主防災組織による活動事例発表

- | | | |
|----------------------|-----------------|----------------|
| (1) 紀伊半島大水害から生まれた絆 | ～あの日、あの時を忘れない～ | -----P.3 |
| | 三重県紀宝町 | 津本自主防災協議会 |
| (2) 命の大切さを、自分で考える | | -----P.3 |
| | 徳島県北島町 | 北島町自主防災組織連絡協議会 |
| (3) <u>へん</u> しも逃げて | | -----P.4 |
| | ※土佐弁で「すぐに」「急いで」 | 高知県室戸市 |
| | | 三津自主防災組織 |
| (4) 自分たちでできることはすべてやる | | -----P.4 |
| | 和歌山県海南市 | 塩津区防災会 |

◆パネルディスカッション -----P.5

◆活動事例発表

三重県 紀宝町

つもと
津本自主防災協議会

おおさこ
企画委員 大峪 やす子 氏

紀伊半島大水害を機に自主防災協議会を結成

津本地区は、熊野川を隔て和歌山県新宮市と隣接した地域に位置しています。紀伊半島大水害の際には、熊野川の支流にある相野谷川が氾濫し、道路や自宅が浸水し、消防や警察へ助けを呼ぶものの 50 番待ちの状況でした。



また、道路の浸水により避難所に行くこともできなかったため、後に、町へ要望し、地区内に防災センターが設立され、同時に、同協議会を結成する運びとなりました。

小・中学生も参加した避難所運営訓練

小・中学生と一緒にいった避難所運営訓練は、201 名が参加し、小学生は簡易担架の使用法や炊き出しの方法、中学生は三角巾や発電機の使用法を学びました。訓練の参加者からは、「避難所でどのようなことをするのかが分かった。」「災害時に自分に何ができるのかを考えるきっかけとなった。」などの感想をいただきました。

避難所運営には女性の目線も

平成 27 年 7 月に台風第 11 号が襲来した際には、紀伊半島大水害を教訓に住民は安全なうちに避難しました。

しかし、避難所で困ったことに、乳幼児を抱えた若いお母さんが授乳できる場所がありませんでした。そこで、部屋にカーテンで仕切りを作り、子供や障がい者の方々の部屋としました。避難所運営においては、女性も主となり、女性の目線を取り入れなければならぬと感じました。



徳島県 北島町

きたしま
北島町自主防災組織連絡協議会

こたに けんいち
会長 小谷 憲市 氏

北島町自主防災組織連絡協議会とは

北島町は人口が 23,256 人、面積が徳島県内で最も小さな町です。1 つの自主防災組織では活動が困難なため、平成 19 年に町内自主防災組織（当時 6 団体）で同協議会を設立しました。

同協議会は、「命を守る」という意識を共有するための総会の開催、町職員とともに自主防災組織が設立されていない地域への訪問などを行い、その結果、現在では 47 団体の各自主防災組織が所属しています。



高速道路ののり面に避難場所を設置

町内の太郎八須地区では、高速道路ののり面に避難場所を設置しました。その避難場所の掃除は、当初は町職員が行っていましたが、後には、この避難場所を利用する自主防災組織の方々が「自分たちの命を守る場所」として自ら掃除を行うようになりました。



地域の様々な主体との連携

これからも町の自主防災組織連絡協議会として各自主防災組織をまとめ、また、地域の消防や警察、学校などの様々な主体と協力しながら、命を守る活動を頑張っていきたいと思います。

高知県 室戸市

みつ
三津自主防災組織

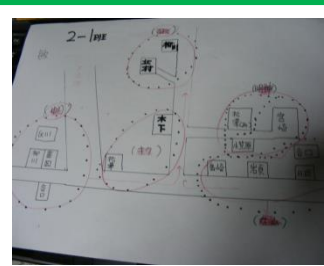
リーダー しまむら みつ お
島村 三津夫 氏

三津自主防災組織の概要

三津地区が位置する室戸市は、南海トラフ巨大地震が発生した際には、海岸線に最大で 24mの津波が到達すると想定されています。そこで、三津地区では、人口が約 470 名の地区内を 13 の班に分け、各班に防災部長を設置し、自主防災組織を結成しています。

「グループサポート」と「安全カード」

三津地区の各班内では、近所の 2～5 世帯でさらにグループ分けを行い、声を掛け合いながら避難する



「グループサポート」体制を作っています。

また、血液型やかかりつけ病院、支援者などを記載した「安全カード」を地区内の全住民に配布しており、災害時には携帯して避難することとしています。この「安全カード」には、折ると 10 時間光る蛍光スティックも付いています。

日常の延長で、楽しみながら防災活動を

同会では、日頃の活動の延長で楽しみながら防災活動を行っています。

例えば、災害が発生した際に住民の集合場所としている空き地には花壇を整備し、避難場所には桜



の木を植えています。避難場所も、花見などの普段からの交流の場としていきたいと考えています。

和歌山県 海南市

しおつ
塩津区防災会

会長 とうかい よしひろ
東海 義弘 氏

塩津区防災会の活動理念

塩津地区は、細い坂道や階段を通路とし、急な斜面に住宅が密集した地域です。また、地区住民の結びつきが強い一方で、人口約 500 名の 4 割以上が高齢者であり、災害時には速やかに避難するのが難しい地域です。そこで、同会は「自分たちでできることはすべてやる」という活動理念のもと、区民全員が一体となり平成 15 年から防災活動を行っています。

「情報」を大切に

安否確認・情報伝達訓練では、避難場所で役員が、家族構成を記載した「安否確認票」



により安否確認を実施し、地区本部へ無線で報告します。地区本部に集まった安否や被害に関する情報は、市の災害対策本部や他の防災関係機関へ伝達します。

夜間の避難訓練の実施

東日本大震災から 7 年が経過した平成 30 年 3 月 11 日には、夜 7 時に地震が発生した想定で避難訓練を実施



しました。訓練の前に区民の方々に配布した懐中電灯は、平成 30 年台風第 21 号接近に伴う停電時に各家庭で役立ちました。

最後に

防災には正解はありません。試行錯誤しながら地域に合う方法を見つけ、全員で協力することが大切だと思います。

◆パネルディスカッション

地域の自主防災活動の経験を踏まえて討論を行いました。ここでは、ご意見の一部を紹介します。

コーディネーター

明石工業高等専門学校 建築学科 本塚 智貴 助教

パネリスト

- ・津本自主防災協議会 企画委員 大峪 やす子 氏
- ・北島町自主防災組織連絡協議会 会長 小谷 憲市 氏
- ・三津自主防災組織 リーダー 島村 三津夫 氏
- ・塩津区防災会 会長 東海 義弘 氏



パネルディスカッションの様子

Q. 実際の災害経験から学んだことは？

三重県 紀宝町 津本自主防災協議会

平成27年7月に台風第11号が襲来し、避難所を開設した際には、路上駐車が多く、緊急車両が目的地まで行けない事態が発生しました。この経験を踏まえ、災害時には専用の駐車場を新たに設けるようにしています。

Q. 日常の延長で、楽しみながら地域で防災活動ができている秘訣は？

高知県 室戸市 三津自主防災組織

防災活動のためだけではなく、日常的に使えるものを作り、日常的に行動できるようにすることを大切にしています。

例えば、避難路に花を植え散歩道にして、日常から住民が親しめる場所を作っています。また、「安全カード」(4ページ参照)については、旅行時に携帯してくれている方もいます。

本塚助教より

自主防災組織の方々の発表は、実際の活動の難しさが伝わり、大変参考になるお話でした。

自主防災活動では、失敗をしながら少しずつ活動を積み上げ、次の活動に活かしていくことが、地域の防災力向上、さらには自分自身の命を守る行動に繋がるのだと、本日の交流大会を通してより深く実感しました。

今後も、地域全体で「自分のこと」と意識を持ちながら、自主防災活動を進めていただければと思います。

Q. 「連絡協議会」として、町内の自主防災組織が連携しているからこそその良さ・難しさは？

徳島県 北島町自主防災組織連絡協議会

「連絡協議会」として平常時から連携していることで、災害時、町内の他の自主防災組織が動けない場合が生じても助け合うことができるのが良い点だと考えています。

一方で、集まった各自主防災組織を尊重し、皆が納得した上で前に進まなければならないのが難しい点です。

Q. 安否確認・情報伝達訓練を実施するなど、情報の収集・伝達・共有を意識している理由は？

和歌山県 海南市 塩津区防災会

災害時に公助ばかり期待するのではなく、自分たちでできることから取り組もうという意識から情報を大切にしています。



地域で避難について考える ～避難対策ワークショップ～

大規模災害から生命を守るためには、住民一人ひとりが「いかに避難するか」について、主体的に考え、行動することが大切です。

昨年が発生した平成30年7月豪雨では、岡山県 総社市 下原地区や愛媛県 大洲市 三善地区で、自主防災組織などが中心となり、犠牲者を出さないよう避難誘導を行いました。

和歌山県では、地域で避難について考えることができるように、自主防災組織や地域の団体が取り組む避難対策ワークショップの進め方、注意点等を取りまとめた「避難対策ワークショップ運営の手引き」を作成しています。

地域でワークショップを開催し、避難対策を考えてみましょう。

避難対策ワークショップとは・・・

ワークショップとは、参加者自身が討論に加わり、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら意見や提案をまとめ上げていく形式のグループ学習です。

一人ひとりが、どこに避難すべきか、どの経路を通して避難すべきかなどを話し合います。また、避難行動要支援者（自主防災組織等の支援を受けて避難する必要がある方）をどのように地域で支えていくのかといったことを検討します。



ワークショップの進め方

- ① **災害の基礎知識を学び、避難に必要な情報を理解する**
専門的な知識が必要となるため、外部講師や市町村防災担当課室に協力を依頼することも考えられます。
- ② **地域の危険性を知る**
土砂災害等が発生しそうな箇所などをハザードマップなどで確認します。併せて、狭い道や倒壊の危険性のあるブロック塀など、避難の支障となる箇所も確認します。
- ③ **「一人ひとりの避難計画」を作成する**
- ④ **避難行動要支援者を考慮した「地域の避難計画」を作成する**

ワークショップを通じて、地域の防災力を高め、
災害による犠牲者ゼロを目指しましょう！



避難対策ワークショップ運営の手引きや資料は和歌山県のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/O11400/workshop.html>

避難対策ワークショップ実施のお問い合わせは、お住まいの市町村防災担当課室へ

「和歌山県防災ナビ」アプリの機能を紹介します！

～避難トレーニング編～



和歌山県では、南海トラフ地震などの大規模災害時の的確な避難を促進するため、防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」を平成30年5月から配信しています。

アプリには「避難トレーニング」「避難先検索」「防災情報のプッシュ通知」「家族等が避難した場所の確認」といった主な機能があります。

今回は、避難訓練の際にも使用できる「避難トレーニング」機能を紹介します。

「避難トレーニング」とは？

- ① 自宅などから避難場所まで実際に避難のトレーニングをすることで、その避難経路や要した時間を記録できます。
- ② ①のトレーニング記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間などの想定を重ねることで避難行動の安全性を確認できます。



① 避難トレーニング中



② トレーニング記録に津波想定を重ねる

避難訓練などでぜひご活用ください！

「避難トレーニング」機能は、避難行動の安全性を事前に確認できることから、この機能を使って地域や学校で避難訓練が実施されています。

ぜひ、自主防災組織などで避難訓練を行う際には、「避難トレーニング」機能をご活用ください。



地域や学校の避難訓練でもアプリを使用

無料でご利用いただけます。

アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。



QRコード



「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

「きのくに自主防災」では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。

自主防災組織の訓練、普段の活動の取組や、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例をご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 和歌山県総務部危機管理局防災企画課 TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652